

第58回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

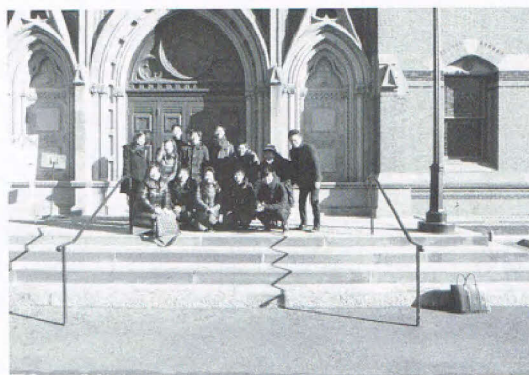
コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



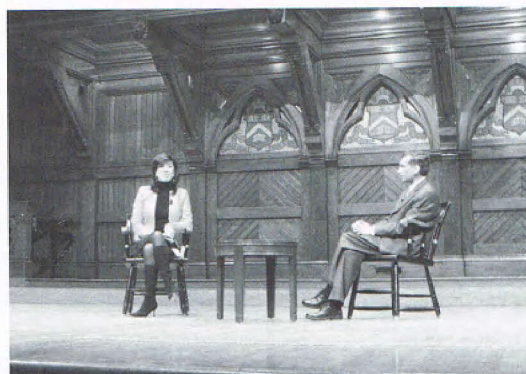
ハーバード社会起業大会2016報告(その3)

今年のハーバード社会起業大会は3月5日(土)、6日(日)の二日間に亘り開催されました。初日の5日のスタートは、ハーバード大学のサンダース・シアターにおいて開催された現在グラミン・アメリカのアンドレア・jung氏の基調講演でした。jung氏は世界的な化粧品メーカーであるエイボン・プロダクツのCEO兼会長を長く務めたアジア系の女性経営者の代表的な人物です。jung氏は、エイボンの会長を退任後、新たな挑戦として、米国社会が抱える深刻な経済格差、貧困を解決するためにグラミン・アメリカを率いることになりました。グラミン・アメリカは、2006年にノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（創設者のムハマド・ユヌス氏とともに受賞）が母体となっており、米国の低所得者層に経済的自立を促すために小口融資を行うマイクロファイナンス事業を展開しています。jung氏はビジネスで成功を収めた後に、社会解決型のビジネスを手掛けることになりました。基調講演後に、モデレーターの同大学カストゥーリ・ランガン教授から、若者へのアドバイスを求められると、jung氏は、「自分が社会に出た頃は社会解決をビジネス的なアプローチで実践する企業はほとんどなかったため、進路の選択肢が限られていました。もちろん、限られた選択肢の中で選んだエイボンで出世できたことは素晴らしいことで、その成功があって、現在の立場があると思っています。与えられた選択肢の中で、自分の可能性を最大限引き出してください。」と述べました。jung氏に限らず、企業経営に成功した

人々がリタイア後に社会課題解決に向けた取り組みを手掛けることはありますが、jung氏が米国の貧困解決を目指すことで、今後、さらに企業経営から社会ビジネス経営へと優秀な人材の流れが大きくなっていくと思われます。



(サンダース・シアター入口)



(サンダース・シアターのステージ上で対話するグラミン・アメリカのアンドレア・jung CEOとハーバード大学カストゥーリ・ランガン教授)

サンダース・シアターの基調講演と複数のセッションを終えた後、大会は場所をハーバード・ケネディス

クール（行政や国際開発の大学院）に移しました。ここでは複数の講義とワークショップが開催されました。



（ハーバード・ケネディスクールのセッション風景）

ケネディスクールのセッションでは、インパクト投資、教育、エネルギーをテーマとした講演やワークショップが多くありました。社会課題を解決するために、様々なリソースが必要となりますが、とくに人材と資金が不足しているのが喫緊の問題ですので、これらのテーマが多くなったのではないかと思います。

2日目の6日(日)は、ハーバード・ビジネス・スクールに場所を移して開催されました。この日の基調講演は教育NPOとして全米で高く評価され、日本を含む世界各国に支部を持つティーチ・フォー・アメリカの現CEOのエリサ・ヴィラヌエヴァ・ベアード氏でした。ベアード氏自身が、大学卒業後にティーチ・フォー・アメリカ（TFA）の研修を受け、実際に教師として派遣された経験を持つ人でした。その後、TFAに従業員として入社し、複数のポジションや支部を経て、CEOに選ばれました。アメリカの貧しい家庭の子供たちの教育水準を上げる取り組みを15年間行ってきて、今後も教育格差の解消に向けて取り組む強い意志を示されておりました。その後も複数の講演とセッション、ワークショップが夕方まで開催されました。講演等の内容はインパクト投資や教育、エネルギー・環境問題もありましたが、ビジネス・スクールということもあり、ソーシャルビジネスの起業方法や経営論などを議論するセッションも多くありました。

昨年は大雪の影響で日程が1日のみに短縮されましたが、今年は天候に恵まれ、2日間無事にすべて



（ハーバード・ビジネス・スクールのバーデン・ホールにおける基調講演風景）

の講演、セッション、ワークショップが開催されました。今年気づいた点としては、セッションやワークショップを行う側（話をする側）に実務経験者が例年よりも多くいたことです。社会起業やソーシャルビジネスを解決する課題を見出したり、検討するという段階から、取り組んでいる課題を解決するために必要なアドバイスを求めたり、あるいは、その取り組みを広く認知してもらうための内容が多かったと思います。社会課題は永遠に無くならないと思いますが、現在、解決に向けて取り組んでいる団体や人々の活動や成果、リスクなどを聞くことができました。

日本でも社会課題解決に向けた活動の組織化が大きな流れを生み出しています。米国などの海外の事例が必ずしも参考になるわけではなりませんが、大きな社会の流れ、方向性として、社会課題解決をビジネスとして運営していくことが可能な状況になってきているのではないかとの思いを強くすることができました。

（注：画像の出所はすべてワールドスタディ）

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント；DWMインカムファンズ日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンスオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ピエトラ・リポリ著 東洋経済新報社）「暴走する資本主義」「格差と民主主義」（ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著 東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。